資料１

第１回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会　議事概要

日　時	2023 年 7 月 31 日（月）13 時 00 分～15 時 10 分
場　所	町田市庁舎 2 階　2-1 会議室
出席者	【委　員】（敬称略） 山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授） 長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授） 藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授） 宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団） 髙橋 倫正（町田市郷土芸能協会） 佐藤 正志（町田商工会議所） 亀田 文生（一般社団法人町田市観光コンベンション協会） 百田 明弘（相原小学校校長） （以上 8 名） 欠席：髙野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会） 　　福田 秀樹（成瀬台中学校校長） 【事務局】 文化スポーツ振興部 篠崎部長 文化振興課 老沼課長、池田、上林、牧野、新井 株式会社文化科学研究所（コンサル） 【傍聴人】 0 人
議事内容	1　開会あいさつ 2　委員委嘱・自己紹介 3　委員長決定 4　町田市文化芸術のまちづくり計画について (1)計画の位置づけ及び期間 (2)検討体制 (3)今後のスケジュール 5　現状報告 (1) 文化芸術推進をめぐる社会環境の変化　（事務局説明：資料 1） (2) 町田市の文化芸術資源　（資料 2） (3) これまでの町田市の取組　（資料 3） 5　計画の考え方　（資料 4） 6　文化芸術に関するアンケート調査　（資料 5） 7　その他 　次回以降の日程決め
配布資料	00_【次第】第 1 回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会.pdf 01_町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会委員名簿.pdf 02-1_（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画について.pdf 02-2_計画策定スケジュール.pdf 03-1_資料 1 文化芸術推進をめぐる社会環境の変化.pdf 03-2_資料 2 町田市の文化芸術資源.pdf 03-3_資料 3 これまでの町田市の取り組み.pdf 04_資料 4 計画の考え方.pdf 05_資料 5 町田市の文化芸術に関するアンケート項目案.pdf 参考資料 参考資料 1_2020 年度市文化芸術に関する市民意識調査報告書.pdf 参考資料 2_2020 年度町田市文化芸術に関する市民意識調査報告書概要版.pdf 参考資料 3_2022 年度町田市文化芸術活動団体へのアンケート調査報告書.pdf 参考資料 4_2022 年度町田市文化芸術活動団体へのアンケート調査報告書概要版.pdf

１　開会あいさつ

○事務局（老沼課長）

次第に沿って進行いたします。

本日は公開の会議で、傍聴人の希望をとったところ今回は無しとなりました。

（次第の説明）

○事務局（篠崎部長）

（開会あいさつ）

２　委員委嘱・自己紹介

（篠崎部長より各委員に委嘱書を手渡しし、委員自己紹介）

○事務局（老沼課長）

委員の皆様、ありがとうございます。町田市文化協会の髙野会長と成瀬台中学校の福田校長先生は本日ご欠席です。2 名欠席となりますが、進めさせていただきます。

３　委員長の決定

○事務局（老沼課長）

本会の委員長、副委員長は互選により定める規定となっています。

事務局は委員長に山口委員、副委員長に長尾委員のお二方を推薦しますが皆様いかがでしょうか。

（全員拍手で承認）

○事務局（老沼課長）

ありがとうございます。では篠崎部長は公務のためこちらで退席します。

ここから山口委員長に進行をお願いします。

○山口委員長

良い計画になるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。では次第に従って進行します。

４　町田市文化芸術のまちづくり計画について

（資料（仮称）文化芸術のまちづくり計画について）事務局より説明

○山口委員長

全体的には、位置付けとして上位計画を踏まえること、文化芸術の定義は法律的な定義にこだわるものではないこと、期間は 2 年間ありますが実質的には今年度に骨子をハイペースで固める必要があるということで、集中的に議論を重ねるのは今年度というスケジュールだと認識しました。委員の皆様のご意見をお願いします。

○宗田委員

計画の名称について、「まちづくり」とあるとハードの文化芸術施設の話をイメージしてしまいますが、この場はソフトの振興策を考えるのでしょうか。あるいはハードの文化芸術施設部分も含めて議論していくのですか。

市民ホールはすでに半世紀ほど経っており、862 席しかありません。和光大学ポプリホール鶴川も 11 年目で 300 席です。文化芸術の発表の場としてこの 2 施設で足りるのかという議論があります。2016 年の「文化芸術ホールの整備に向けた基本的な考え方」では 2,000 席のホールも必要だという考え方が出ていたように思いますが、そこはどのように考えますか。

○山口委員長

事務局からご説明をお願いします。

○事務局

まず計画のタイトルは仮称ですので、懇談会の中でより良い名前が策定できればと思います。

計画の範囲としては、基本的にはソフト面の支援をしたいと考えていますが、それに当たっては活動の場としての施設整備も必要になりますので、ハード・ソフト両面をこの計画の中でしっかり作っていきたいと考えています。

○山口委員長

おおまかに言えば、ハード・ソフト含め文化芸術に関わるあらゆる領域が対象に入りうるという認識でよろしいですね。

○佐藤委員

市民意見の収集の中の、子どもセンターでの意見聴取はどういうものですか。今日の資料にアンケート用紙などは入っていますか。

○事務局

資料には入っておりません。子どもセンター5 館の小学校 1 年生から高校 3 年生までの来館者、お祭り来場者に文化振興課職員が聞き取り調査を行っています。

質問は 3 問あり、1 つ目に、文化芸術という言葉に対してどういうイメージを持っているかを聞いています。2 つ目に、将来の文化の担い手となる子どもたちに、自分たちが文化芸術を見たり行ったりする場合は具体的に何をやりたいかを聞いています。3 つ目に、この後ご説明する「文化芸術のチカラ」というキーワードに関連して、例えば「歌を歌ったら元気が出た」というような具体的なエピソードを聞き取っています。

○山口委員長

市民意見収集の範囲は幅広い方が望ましいですが、予算等の制限があって今回は市民意識調査と子どもセンターでの聴き取りを行い、そのほかの情報も踏まえながら議論していくということですね。

○亀田委員

観光と文化を意識的に連携するために、文化を一つの資源として観光を進めていきたいと考えていますが、観光という場面で、どのような視点で文化に関わっていけばよいか悩んでいます。いかがでしょうか。

○山口委員長

観光資源は文化そのものですし、実際には多分に関わっておられますが、「文化」という言葉になると市民にとってもやや異質に感じられるのかもしれません。実際にはあらゆるものが文化ですので、最初の段階では限定せず幅広く認識してはと思います。

○髙橋委員

文化芸術基本法に規定されている文化芸術の範囲で、伝統芸能と、地域における文化芸術と分かれていますが、私たちがやっているお囃子や獅子舞などはどちらに分類されますか。

○事務局（老沼課長）

我々も資料の表にある文化芸術基本法の文化芸術の範囲見て考えていますが、例えば、芸術という中に写真が入っています。写真は、写真展を開くような場合もあれば、より生活に根付いている文化でもあるというように、この表に入っていなくても、あまりしっかりジャンル分けはせずに、皆さんの生活に馴染んでいる文化という捉え方をしたいと思います。獅子舞やお囃子はおそらく伝統芸能に入ると思うのですが。

○長尾副委員長

近年の文化財保護法の区分を見ると、お囃子や獅子舞は地域における文化芸術に入っており、伝統芸能とされているのはいわゆる古典芸能系のものだと思います。「地域固有」が一つのキーワードで、文化芸術としての洗練度とは別に地域性を重視して価値が認められるという尺度を持っている点からも、よりこちらに当てはまります。昨今は地域文化の振興策や活用が盛んに言われますが、それらもこのカテゴリのものに当てはまるのではないかと思います。

○山口委員長

なかなか一つ一つはカテゴリに当てはめにくいので、固定化しないよう、この枠に入っていないものも含めて文化として、こだわらないという共通認識でいきたいと思います。

○髙橋委員

どちらにも含まれると考えればよいですね。例えば八王子の車人形も古典であり地域の芸能でもありますね。

○山口委員長

そのような共通認識で、スケジュール感なども共有されたと思いますので、現状報告に参りましょう。

５　現状報告

(1) 文化芸術推進をめぐる社会環境の変化

(2) 町田市の文化芸術資源

(3) これまでの町田市の取組

（資料 1 文化芸術推進をめぐる社会環境の変化、資料 2 町田市の文化芸術資源、資料 3 これまでの町田市の取り組み）事務局より説明

○山口委員長

では現状の資料についてご意見はありますか。

○藤枝委員

資料 1 にある高度情報化とデジタルトランスフォーメーションの流れは今後ますます大きくなります。10 年後の社会を考えるにあたり、将来に向けての都市計画などの情報もいただけると、検討しやすいと思うのですが、いかがですか。例えば国際工芸美術館の計画もあると思います。

○事務局

ハード面での町田のまちづくりについては、都市マスタープランという計画があります。そのほかに芹ケ谷公園のパークミュージアム計画などの個別分野ごとの計画がありますので、文化芸術に関わ

りのある部分については後日、事務局からご提示できると思います。

○山口委員長

基本的には上位計画を踏まえて入るべきものが現在は資料に入っていませんが、今後それらも明文化されていくものと思います。

○宗田委員

社会環境の変化の部分で、文化芸術については 3 番目の近年の社会環境の変化が一番大きいと思います。この 3 年ほどのコロナ禍の期間の、事業ができない、観客が入らないというところから徐々に回復してきて、今はリバウンドで人が過度に集中しています。この 3 年間で得た経験、情報は、今後を考えていくには非常に重要だと思います。

少子高齢化も、髙橋委員が言われたように、伝統芸能、市民団体、全国バレエなど 50 年近く続いているものも、主催者の高齢化で後継者不足が課題になっています。

また市民意識調査も、コロナ禍の時のデータですので、この結果が役に立つのか少し疑問です。これを今後活かすにはどの辺を意識すればよいのでしょうか。

○山口委員長

調査時期を含め、社会変化の部分は今後補完の必要があると感じました。現状については、今回は第一回目ということで、ご意見を踏まえてバージョンアップしながら計画に反映させていくということで、ご理解をお願いいたします。それでは今日の議論のメインである計画の考え方に参ります。

６　計画の考え方

（資料 4 計画の考え方）事務局より説明

○亀田委員

「なんだかんだ言っても住み続けたい」というのはどういう意味か、ご説明いただけますか。市役所全体で使っている言葉ですか。

○事務局

フレーズは、町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン 2040」のキャッチコピー「なんだ　かんだ　まちだ」から持ってきているもので、これは４つの案から一般投票で決めたものです。町田市は学生の転出数が多いけれども、数年後には「なんだかんだ言って町田がいいよね」と戻って来てもらいたいところからの発案です。

○亀田委員

一見自虐的な感じがして腑に落ちないですが、理解しました。

「誰にでも機会があるようにする」とありますが、文化イベントの一覧を見ると非常にたくさんあります。「触れられない、触れていない」のではなく、「知らない」、これが文化だと気づいていないのではないかと感じました。文化というと高尚なイメージ、観光はより経済に近い感じがするので、「そんな高尚なものには私は触ってない」という方が多い気がします。一覧表には町田さくらまつりもありますが、おそらく文化だと気づいていない、思っていない方たちにどう気づいてもらうかが重要だと思います。

○山口委員長

最初のステップとして、気づいていただくことが重要だというご指摘ですね。ありがとうございま

した。

○宗田委員

以前財団で BCP（事業継続計画）を作り、災害時にどう事業再開するか専門家を入れて検討したところ、財団が行っている仕事は被災後すぐにはいらないという結論が出ました。文化芸術の発信は、生活の基盤ができて、余裕ができた時に初めて必要なもので、地震後 10 日や 1 週間では必要ないという結論でした。しかし、コロナ禍で全く活動できなかったことで、文化は生活というより心のゆとりができると必要なものであると改めて感じました。文化はお金で測れない、見えないけれどもすごい力があり、今回の計画はとても大事な計画だと思います。

○山口委員長

レジャーや観光は災害時やコロナ禍では「不要不急」と見なされがちですが、まさにそういう時こそレジャーは重要です。災害時においても、ある程度安定したらすぐ文化が必要ですし、災害対策にも文化は入ってきます。

○宗田委員

この 3 年間、文化芸術の担い手の方々はいかに継続するか努力をされていて、我々はその場をいかに提供し支援するかを考えてきました。今日の委員会には次世代の担い手である教育、場の提供、経済、文化団体の代表も入っていて良いメンバーだと感じます。

○藤枝委員

「計画の考え方」の内容は、主に実際に人間が体験するものと理解しましたが、上位計画には文化的な資源のデジタル化も入っていますので、デジタル化をもっと意識して、文言としても少し入れた方が良いと思います。

5 年後、10 年後、20 年後には街全体がデジタル化してクラウドで繋がり、車が自動運転になって渋滞を回避するような状況も考えられます。その中で美術館を実際に訪問して体験するだけでなく、インターネット上での文化経験も増えてきています。例えばデジタル町田市民のような形で、町田に住んでいないけれども町田に関心がある、町田の美術館メンバー、文化財団を応援する人たちなどの「関係市民」も将来的には考えられると思います。山形県西川村でデジタル住民票 NFT を 1000 円で発行すると競争率 13.4 倍と、とても人気があったということです。買った人には特典が与えられてオンラインコミュニティに参加できます。町田に住んでいないけれども町田を盛り上げてくれる仲間を視野に入れるとよいと思います。

○山口委員長

コンテンツやデジタルアーカイブを含むあらゆるデジタルへの対応が絶対的に必要であるということと、市民や通勤通学する人、そして通過する人、さらに交流人口だけでなく応援する人の視点も非常に重要であるという、大変重要なご指摘でした。

○百田委員

子どもたちには夏休みの宿題がある上に、読書感想文、絵画コンコールなどを始めとして大量の案内が学校に来ます。我々はその中から取捨選択して、地元地域が募っているコンクールで、身近な場所に展示されるなど取り組みやすいものをピックアップして、子どもたちに案内しています。未来の担い手である子どもたちには、町田市だけでなく東京都からも日本全国からも案内が来る中で、地域を超えたより広いエリアというところが難しいと感じました。

○山口委員長

町田市の取り組みに加えて、町田市以外の取り組みもあり、扱いをどうしていくかというのは非常に難しい問題ですね。

○長尾副委員長

今のご指摘について地理学専門の立場から見ますと、スケールの問題があって、例えば地域の郷土芸能にとっては市という単位よりも地区という、地理的により狭い範囲のコミュニティが切実になってきます。そこにおける住民の生活や文化のあり方が問題になります。ホールの件においても、市民の文化活動の活発さに比して収容力が弱いという見方もありますが、町田市は東京都にあるという点も考えると、どういう規模が適正かは一概に言えません。都心へのアクセスの良さや沿線・近隣の文化施設を勘案して、相応しい規模と性質をもつ施設を整備し活用していくという見極めも視点として必要だと思います。

○山口委員長

周辺の自治体や東京都全体、近県も含めた役割分担やネットワーク化ですね。

○百田委員

現状では小学校の連合音楽会は、市民ホールの都合で昨年はパルテノン多摩を使いました。今年度は劇団四季の「こころの劇場」を八王子のジェイコムホールと調布のホールに分かれて鑑賞し、町田市の施設は利用していません。実際にすでに棲み分けている部分はあります。

○長尾副委員長

そうした実際の活動の場で交流も生まれますし、交流人口、関係人口という先ほどの視点や、連携のあり方にも繋がっていくように感じます。

○山口委員長

現状の役割分担も踏まえながら、今後を考えていくというご意見と認識しました。

○髙橋委員

「文化芸術にはチカラがある」という気はしますが、今回のコロナ禍で、お囃子も獅子舞もほとんど練習する機会や場所がありませんでした。その影響で跡取りがいなくなり、どうやって立ち上げていこうかという問題が現実に出てきています。地域としては当然残して、そのチカラで地域を活性化したいと考えています。

お囃子や獅子舞は、今では文化芸術と言いますが、元々は地域の娯楽が継承されてきたもので、確かにお囃子が流れてくると体がワクワクして、お祭りに行こうかなという元気が出ます。今後どういうふうに地域に根ざして継承していくかを示すのがこの計画だと思いますが、難しい気がします。2022 年の東京オリンピックでも、東京都の文化芸能を発表する場はありませんでした。東京都の文化芸能を外国人に見せる機会があるのに、なぜ東京都はそれを利用しなかったのか。いくつかの団体が連絡し合って働きかけたが実りませんでした。今後、団体の存続、育成のためにも、発表の場が必要です。地元だけでは残念ながら若い人たちは入って来ません。その辺りも踏まえた計画になるとよいと思います。

○山口委員長

資料 1 枚目図の「活動の担い手」につながる矢印がどう構築できるかという点が重要ですね。

私自身は、資料 2 枚目に障がい者やエスニシティ、ジェンダー、年齢に加えて健康状態があるのが良い視点だと思っています。私は病院内でのレジャーや、病気の方のレジャーの研究も行っています。

誰もが病気になる可能性がある中で、病気でも文化芸術を楽しめる、あらゆる方が文化芸術の対象となるという視点が大切です。

それでは、時間も迫って来ましたが、先ほどから出ていました文化芸術の定義は法律にこだわらず、ハード、ソフト両面も踏まえて幅広く議論しましょう。また対象も幅広く捉えてステップアップさせたり、デジタルを加えたりして、気付きや、誰にでも機会があるという点も留意していきます。さらに、応援する、会員であるなど、市民や通過人口、交流人口だけでない新しい視点を重視し、災害時の文化、担い手の育成、周辺地域との役割分担といった多様な視点を議論していただきました。

今回は考え方の例として、現在あるたくさんの視点を踏まえて計画の検討を始めるということでよろしいかと思います。今申し上げた視点で抜けがありましたら補足してください。ではアンケート調査の検討に進みましょう。

7　文化芸術に関するアンケート調査

（資料５文化芸術に関するアンケート調査項目案）事務局より説明

○山口委員長

アンケート調査票については、今日議論した視点を踏まえて少し見直されます。大きな視点で何かお気づきの点があればご発言ください。

○宗田委員

先ほどの長尾委員のご意見に関連して、今回のアンケートは市民だけが対象になっていますが、通勤者や興味がある人がホームページを見て回答できるなどの工夫は必要ありませんか？

○事務局

現時点では無作為抽出した対象に直接用紙を送る方法を想定しており、市民を対象にしています。ご指摘を受けて、例えばホームページから直接誰でも回答できるようなしくみも可能ですが、同じ人が何回も答えてしまうといった問題もありますので、ひとまずご意見として承って、内部で検討させていただきます。

○宗田委員

誰でも答えられるものと、対象者限定のものがあれば、２つの結果を比較できるのではと思いました。より広い意見を集める方法があれば良いと思います。

○藤枝委員

町田市が、市外の人に対してどれだけの価値を提供しているのかを見ると、町田市の強みがより明確になると思います。例えば文化施設の来館者が市内の方か、市外から来ているかが分かれば、計画が立てやすいと思います。

○長尾副委員長

今回のアンケートに限らず、分析していく段階では、既存のアンケートも活用できないかと思いました。美術館でのアンケートは市内外からの来館者にしばしば「どこから来たのか」を含め回答をお願いしています。

また市民に絞るとしても、その中の多様性をどう担保するかは検討した方が良いと思います。障がい、ジェンダー、エスニシティなどですが、最初の性別の質問の選択肢でいきなり「1 男性、2 女性、3 答えない」とあり、この「3」をどう受け止めたら良いのか戸惑います。他の設問では「該当しない」をワンクッションとして設けてから「無回答」とありますので、もう少し選択肢の作り方を考慮する

など、多様性に配慮してはと思います。

〇山口委員長

既存のアンケートを活用することと、市民以外のより広いアンケートについては事務局で検討する。また調査票の細かい点については、ジェンダーを含め配慮し修正するということでよろしいでしょうか。

では８の次回以降の日程については、欠席の方もおられますので、事務局で調整してご連絡します。その間に議事概要の確認も発生しますのでよろしくお願いします。

８　その他

次回の日程について

〇事務局（老沼課長）

ありがとうございました。お時間が若干過ぎていますが、冒頭に一つ進行を飛ばしてしまいましたので、事務局職員とコンサルの自己紹介を申し上げます。

（事務局、コンサル自己紹介）

〇事務局（老沼課長）

それでは、次回の日程は 11 月下旬頃を予定しています。議事概要をホームページで公開しますので、委員の皆様におかれましては後日ご確認をお願いします。ではこれにて終了いたします。

以上